

自然を楽しむ

今年初めての川遊び
7月6日(水)、治田保育園の5歳児が青川まで歩いて川遊びに行きました。5歳児恒例の川遊びは年に数回。暑い日が続く、子どもたちは初めての川遊びを楽しみにしていました。川へ到着してから、保育士が川遊びの危険性を伝え、子どもたちは真剣な表情で聞いていました。川へ入ってしばらくは、流れに足をとられ歩くのに四苦八苦。慣れてくると水をかけあったり、川の中を観察したり。プールとは違って、流れのある水に「冷たくて気持ちいい〜!」と全身ずぶ濡れになって楽しんでいました。子どもたちにとって、自然に触れる貴重な体験になりました。



1. 「一緒に座ろう」と仲良く声をかけてあって2. この日は少し雲がかかって過ごしやすい川遊び日和でした3. 勢いのある水を浴びれるのも川遊びならでは

「どうやったら訪問診療を受けられるの?」などの質問に答える平山先生



図書館で健康づくり

いなべ暮らしの保健室と員弁図書館が共催
6月20日(月)、どんぐり診療所の平山将司先生による在宅医療についての講座が員弁図書館で開かれました。これは、いなべ暮らしの保健室が、図書館の利用者に健康づくりに関心を持ってもらおうと企画し、員弁図書館と共催したものです。9、12、3月にも医療専門家による講座を開く予定。員弁図書館では、講座のテーマにちなんだ図書を集めたコーナーを設置し、来館者の健康づくりにつなげます。

空き缶、吸い殻、バーベキューの網など、多くのごみが見つかりました



町をみんなでキレイに

大安公民館周辺が清掃されました
6月25日(土)、いなべ市ボランティア連絡協議会が清掃活動を行いました。今回は、清掃ボランティアを行っている坂口英男さんを講師に招き、活動が行われました。14人が参加し、1時間の清掃でゴミ袋6枚分も集まりました。会長の水元優子さんは「予想以上のごみの量でした。今日の活動を地域の人たちに共有し、私たちの団体を知るきっかけにして、今後につなげていきたい」と話していました。

操法大会に出場

消火活動の安全性や迅速性を競う
7月10日(日)に、三重県消防学校で2年ぶりの消防操法大会が行われました。いなべ市消防団からは、北勢北分団の5人が出場し、小型ポンプを使って放水を行う競技に挑みました。団員たちは、大会に向けて4月から週に2、3回集まり、夜間の練習に励みました。コロナ禍で大会の開催が危ぶまれたり、練習参加人数を20人までに制限されたりと、例年と違う環境にモチベーションの維持が難しかったそう。団員の寺輪源太さんは、「成績を残すことも大切ですが、チームで団結して大会をやりきりたいという思いが一番でした」と話しました。残念ながら優勝は逃しましたが、地域を守る消防団の連携が強まったことは、市にとって大きな財産になりました。

1.2.3. 団員の多くはサラリーマン。退社後の限られた時間の中で集中して取り組みました



1. 「たなばたさま」を歌う園児たち 2. ブラックシアター



天の川を保育園で

七夕会でブラックシアターを鑑賞
7月7日(木)に、ほくせい保育園で七夕会がありました。園児たちは、「貝つなぎ」や「ちょうちん」を七夕の日に飾る意味を教えられたり、歌を歌ったりして楽しみました。その後、照明が落とされ、ブラックシアター「おりひめとひこぼし」が始まりました。園児たちは、いつもと違う真っ暗な室内にワクワク、ドキドキしながらも、保育士の話す物語と、きれいな光の演出に夢中になって見ていました。

「市民の奉仕者として活動する」という思いで委員を続けてきました



行政評価局長から表彰

傾聴することを大切にしてきました
行政相談委員の日下部武さんが、総務省中部管区行政評価局長表彰を受賞しました。日下部さんは、郵便局長の経験を生かして、平成21年4月から市の行政相談窓口で多くの相談に対応しています。「解決に至らなくても、相談者に寄り添って話を聞くことで悩みが解消されることもあります。年々相談件数は増えているので、今後も相談者への助言や関係機関への橋渡しをしていきたい」と話していました。